

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	商店街（代表者）	・冬は灯油高騰の影響で、客の買い控えというダメージがあったが、2～3か月後には暖かくなり、灯油高騰の影響がなくなることが見込まれることから、期待できる。
	変わらない	百貨店（売場主任）	・所得の上昇がみられないことから、ここ最近の物価上昇が大きく影響してくる。シーズンの冬場の灯油価格高騰が一段落するが、今度は物価上昇が生活費を直撃するようになり、今の状態が継続することが見込まれる。
		百貨店（売場主任）	・前年と違い、春物商材に動きが少しみられる。今年は2月中旬ごろから暖かい日が続くということなので、春物のスーツ・コートに動きが出てくることが見込まれる。
		スーパー（役員）	・2～3月に食品メーカーの値上げが相次ぎ実施されるので、現状のまま推移するとは考えられないが、現状は良い数値で推移していることから、食料品に限っては大きな変化は無いとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数は前年をやや下回る程度であり、買上点数も前年並みで推移しているが、相変わらず単価の低い商品へのシフトが進んでいることから、売上の伸びない状況が続いている。ガソリン代、灯油代が高騰が続いていることから、生活防衛の意識が強く、短期間では売上が回復しないことが見込まれる。
		家電量販店（店員）	・新入学などの季節需要があるが、現在の状態からそれほど期待できない。
		高級レストラン（スタッフ）	・このまま灯油代が下がらなければ、雪解けの5月くらいまでは、ランチ客に影響を及ぼすことになる。
		スナック（経営者）	・3～4月は歓送迎会の予約がほとんど無いため、良くなるが見込まれない。
		観光型ホテル（経営者）	・観光客の動きが鈍い。消費単価は思っていたよりも上昇しているが、利用客が増加しないと、売上には結び付かないため、今後についても変わらないまま推移する。外国人客も期待しがたい状況である。
観光型ホテル（スタッフ）		・依然として宿泊客の財布のひもは固く、今後についても変わらないまま推移する。	
旅行代理店（従業員）	・これ以上悪くなってほしくないが、好転しそうな機運や材料が見受けられない。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・原油高に伴う原材料価格の高騰により、食品を中心に物価の上昇が進み、生活防衛意識がより一層強まる。今後については個人消費全般でやや悪くなるが見込まれる。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・今月に入ってから、得意先の閉店が3～4件出ており、今後、更に閉店数が増えることが見込まれる。その一方で、新規閉店はなかなか無い状況なので、総体的に売上は厳しくなる。	
	一般小売店〔土産〕（店員）	・原油高の影響で、国内線、国際線共4月から航空運賃が値上げされることになり、観光客数の減少が懸念される。仮に前年並みの観光客数であっても、土産代や飲食代がかなり削られることになる。やはり生活用品の全般的な値上げが消費マインドに影響を及ぼしており、今後についても財布のひもが固くなる傾向が続く。	
	スーパー（店長）	・株価下落と物価上昇、中国産商品の拒絶風潮が今後ますます広がり、購買意欲を減退させることになる。	
	スーパー（企画担当）	・諸物価の値上げ問題に加え、株式市況の低迷や中国産冷凍食品の中毒問題など消費の足を引っ張る状況が続いている。今後については生活防衛に加えて、中国産商品を始めとする冷凍食品の消費減退が懸念されるなど、先行きに厳しいものがある。	
	スーパー（役員）	・加工食品を中心に軒並み値上げが進んでいる。客の警戒感が強いことから、今後については買い控え等に向かうことが見込まれ、全体的に景気は悪くなる方向に向かうことになる。	
	コンビニ（エリア担当）	・人口の流出に伴う人口減が更に進行していく環境下において、競合店の出店が相次ぐこと、また原材料価格の値上げの流れのなかでの価格競争が続いていることなどから、体力の無い小売業の廃業が増加する。今後については消耗戦を強いられることになりそうである。	

		コンビニ（エリア担当）	・前年から来客数の増加が続いている反面、客単価の低下に歯止めが掛からない。特に燃料費が増加する1月中旬以降、その傾向が顕著となっている。今後についても、卒業入学シーズンとなる4月までは出費が増えるため、消費は厳しくなることが見込まれる。
		家電量販店（地区統括部長）	・灯油高騰や物価上昇の影響が続き、今後の家電需要は更に厳しくなることが見込まれる。
		観光型ホテル（経営者）	・昨年1年間の函館の観光入込客数、函館空港の利用率等の数字が一貫して下がっていることから、この傾向が続くことが見込まれ、今後についてはやや悪くなっていく。
		旅行代理店（従業員）	・一部の海外チャーター商品を除き、個人旅行、団体旅行共受注が伸び悩んでいることから、今後についてはやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・個人消費が伸び悩んでいるなか、旅行事業については非常に厳しい面がある。
		観光名所（役員）	・国内団体客の落ち込みがこのまま続くと、外国人客の動きによっては先行きが厳しくなることが見込まれる。
		観光名所（職員）	・物価の上昇、燃料の高騰などから消費力が鈍っており、今後への好材料が見付からない。また洞爺湖サミットを直前に控えて、観光客が北海道旅行を敬遠することが懸念される。
		美容室（経営者）	・消費者がガソリンや灯油、食品等の値上げに対して敏感になっており、前年よりも出費を抑える傾向が強くなるが見込まれる。
		その他サービスの動向を把握できる者	・生活諸物価の高騰から、旅行マインドは冷え込む一方でであり、今後については良くなる要素が見当たらない。
	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・株価低迷、ガソリン高騰の影響が今後も続く。食品の値上げが今後も相次ぐことから、消費者は更に買い控えするようになり、消費は冷え込む。
		コンビニ（オーナー）	・近隣ホテルの観光客が低迷していることから、今後については悪くなる。また食の安全に関する部分で商品にかなりシビアな目が向けられており、特に低単価商品の消費量の落ち込みが目立っていることも、今後の厳しさにつながってくる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・石油製品を始めとする日用品の相次ぐ値上げにより、更に消費が減退する。
		タクシー運転手	・北海道では冬期間の灯油の値上がりにより、家庭の生活費が圧迫されている。今後もガソリン価格などの高止まりが続けば、個人消費が更に冷え込み、景気が悪くなっていく。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・実需がすぐに発生するわけではないが、公共工事のゼロ国債工事の発注により、マインド面での改善がみられるようになる。
		その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・4月以降の案件が例年よりも早めに確定しだしていることから、今後についてはやや良くなる。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・主たる加工原料であるイカが豊漁に恵まれたことから、仕入価格が下落しているものの、他の輸入原材料については価格が高騰している。現在は、加工採算が合わず製造量が減少している状況であり、今後についても厳しいまま変わらない。
		金融業（企画担当）	・住宅着工件数がある程度持ち直してくるが見込まれるが、公共工事、民間工事は停滞が続く。個人消費は所得環境の好転が見込まれず、生活必需品である食品や灯油価格の上昇もあり、弱い動きとなる。総じて道内景気は横ばいで推移する。
	やや悪くなる	家具製造業（経営者）	・住宅着工の減少により、家具需要が低迷しており、今後についてもやや悪くなる。
通信業（営業担当）		・周囲の企業の状況を見ると、来期の計画策定段階で厳しい予測を行う企業が前年よりも増加していることから、今後についてはやや悪くなる。	
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・採用枠を充足していない企業があるため、2～3月にかけて補充採用を行うことが見込まれる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・下期に入り、求人、求職共に動きが鈍っている。そろそろ今春の動きが出てきてもいい時期だが、現時点では出足も鈍く、これから一気に加速するとも思えないことから、今後については厳しいまま変わらない。

やや悪くなる	職業安定所（職員）	・12月の新規求人数、月間有効求人数とも、前月から10%台の減少となっていることから、今後についてもやや悪くなる。
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・良くなる要素が見当たらない。3～4月の雪解けの時期には、求人需要も、求職需要も若干高まるだろうが、一時的な動きと言える。企業の収益悪化に伴い、企業体力がどこまで持つのか心配している状況である。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・燃料の値上げ、原材料の値上げなどの影響が、体力のない中小零細企業の経営悪化を一層深刻化させることになり、雇用も悪くなるが見込まれる。